

混 凝 土 專 修 學 校 展 覽 會

一 記 者

東京と横濱の間に數里が程の海岸を見ると故淺野總一郎翁の大事業の數々が生き残つて見える。其中にも川崎市海岸の大埋立事業と其土地に設けられた、セメント、造船、製鐵其他各種の工場など、それにつれて鐵道が出来、運河が出来、今尚ほ鶴見川の口にはサクシオン・ドレッジャーが數臺、埋立地を造つてをるのを見る。それは淺野氏の事業でないとしても、後人が淺野氏の創業のまねをしとるに過ぎない位のものだ。何としても今日の横濱市内から京濱間一帯にかけての工業的文化の跡を見ると淺野氏の巨大な足跡がまざ々と生きて見える様だ。

十月十六日子安町の丘上に在る混凝土專修學校の記念展覽會を見學に行く記者は、子安のあの丘上で横濱灣を眺め乍ら一人そんな事を考へてゐた。

丘の上には半ズボン姿の淺野翁の銅像がにこやかに東京灣を見渡して居る。空には追濱から來た水上飛行機が二臺、凄いプロペラの唸りをたてて飛んでゐた。

混凝土專修學校と言ふのは四十人程の生徒が混凝土を専門的に實習してゐる學校である。我國の混凝土工學者として、又實際家としての權威たる阿部美樹志博士が校長として、創立以來すでに數回の卒業生を出し、我國の混凝土の實施設計には有爲の人材を送つてゐるのである。

展覽會の第一會場は今回新築された校舎の一である。校舎と雖も市内の學校を見た目から云ふと全く小な平家建の物であるが、僅かに四十人しか收容しない學校であるから、それで充分である。然も此鐵筋コンクリートの

校舎は一坪金七十圓位で建築するつもりで、在校生の勞力により殆んど他の勞働者を使はずに施工したものであるのは如何にも意義深い事である。二つの教室には生徒の手になる諸種のモデルが、夫々の意匠を凝して飾つてあつたが、單にコンクリートと言ふ一つの構築材料に對し、これ丈けの展観をする事は中々容易ならぬ努力であつたらう。然も此の催しは全部學生の自發的事業である。

第三會場は材料試験室であるが、此處には二百噸の試験機 其他種々の試験設備があつて、カラムテスト、ビームテスト、ラ・メンスト等が三日間に渡り施行され、一般參觀者に説明されてゐる。第三會場は古代ローマ、ギリシャ時代からのコンクリートの變遷を歴史的に模型や圖で表現してある。本校の學生は大部分中學卒業以上のものであるが、其學校の生活の一部を、本校で發行してゐる混專時報の一文「我等の生活」S生の文に見ると。

午後は一時四十分から始まるのだ。「おい今日の午後は何んだ」

「作業だよ」

「そうか」

僕は教室に入つて作業服に着かへ實驗室に至れば二三人ばかり先に來て居る。

「三組集まれ集まれ」

かくして一大混雜を呈するがやがて混凝土專修學校獨特の作業が開始されるのだ。

一組が六人になつて混凝土をぬる用意につく。

「ねり臺を出せ」

わつしよいわつしよいかつぎ出す。

シャベルだシャベルだ。

道具が一通り揃ふとセメント××瓦、砂××瓦

に砂利が××瓦、そして水が××瓦。

すべて分業だ。

僕はれり方だ、シャベルを持つてれり臺の前に用意萬端整へばものすごい勢ひでれり始める。

ガラガラガラガラ!

汗が出てくる。セメンがげつと煙りになつて立ち登る。

汗とセメンで顔中眞黒になつた。頃混凝土が出来上がる。

バケツと天秤で型枠まで運搬だ。

「ドッコイショ」の掛聲で肩にのせる。

全部運び終れば又異なる調合で前の事をくりかへす

そして五時頃までに十五六枚のブロックを造り上げるのだ。

型枠につめ終れば後掃除だ。

聲高らかに流行歌などを口ずさみながらシャベ

ルをあらふ。

紙に書けば非常に早い様に思はれるがこれで四五時間は充分にかかつてしまふのだ。

掃除も終つて組々が集まつて水道の廻りで汗をぬぐひ實驗室を出る時の氣持のよき又かくべつだ。

空を見上げれば太陽は銅像山の影に没していつしか暮れかからんとして居る。

かくして一日の業務にいそしんだ我々は歸路につくのだ。

その労働によつて身體は強健に精神は強固になつてゆくのだ。

自然の中に打越の丘は我々の生命を育て、ゆくのだ。

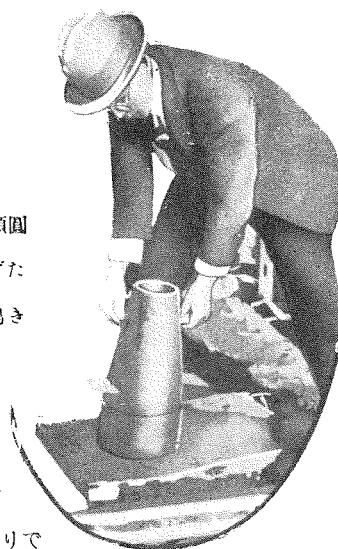
そして毎年この丘より二十餘名のコンクリートエンジニアが生み出されて居るのだ。

長い我々の一生を通じて果して此の時に得た深き印象を忘れる時があるだらうか。

最も簡単なコンクリートの試験

混凝土の稠度を試験して建造物に一定の強度を與へる爲のスラムテストは、凡ての混凝土工事を合理的ならしめ、その精密と安全を保證いたします。

スラムテストは、上徑10糎、下徑20糎、高30糎の截頭圓錐形の筒(スラムコーン)を平板上に置き、練り上げた混凝土を四層に分けて入れ、每層所定の搗棒で三十回宛搗きます。そして最後に上面を鍔で平滑に均し、靜かに筒を上方向へ抜き去るのです。そしてその時の混凝土のス



ラムプ(崩れ)によつて稠度を知ります。大體適當と思はれる標準は別表の通りです。用具は一組を箱入として、工事研究會で製作分讓して居ります。用法とテストの記入法など印刷してありますから、工事監督の工夫君にでも助手君にでも簡単に使用出来ます。

カタログ送呈

工事畫報社工事研究會
東京市麴町區丸之内三丁目六番地

電話の御照會は

丸の内(23)2633 番へ

混凝土の種類	最大スラム(糎)	
マスコンクリート塊混凝土	5	
鐵筋混凝土	薄き垂直断面	15
	厚き断面	5
	薄き部分的水平断面	20
道鋪路及裝	人工仕上	10
	機械仕上	2.5
床仕上用モルタル	5	